

令和2年度 第3回学校運営協議会記録

1. 日 時 令和3年2月8日(月) 14時30分～15時30分
2. 場 所 本校 校長室
3. 出席者 学校協議会委員(出席6名)
・寺脇 久人 ・戸堂 耕造 ・南 良博
・中谷 正彦 ・山口 裕通 ・川上 加代
4. 議 題 協議に先立って、
「学校運営協議会の運営に関する要綱の改正について」
「令和2年度学校評価について」
「令和3年度学校経営計画について」
「広報・学校説明会について ～コロナ禍での対応～」
「令和2年度進路状況について」、
「生徒状況について ～各学年から～」
「PTA 活動について」
「生徒会活動について」、
等の報告を行いました。
5. 協議概要 以下、協議において出席委員から出された主な意見等です。
- (コロナ禍における生徒状況に関連して)
- どのような状況でも、基本的な生活習慣をしっかりと確立させることは必要。基本的な指導方針は変える必要はないであろう。
 - 生徒の自尊心や自己肯定感を高め、主体性を持たせて遅刻数を減らしていくようお願いしたい。
- 新型コロナウイルス感染症による休業期間が長くなり、生活のペースが乱れた生徒が多い。感染対策を徹底することで、生徒、保護者の不安を取り除き、安心して登校できる環境を整備しているところである。休業期間の授業の補填については、土曜授業を14回設定するなどして対応している。
- 生活や学習習慣の立て直しについては、担任を中心に、生徒の情報を共有し、教科担当を含めて個別の支援、相談に応じている。
- (進路指導について)
- コロナ禍で先生がたには様々な形で学習支援をしていただいて、頑張っている。次年度の進路指導においては、進学先について具体的な目標を定めても良いのではないかと。

→ 本校生の進路は多岐にわたっている。学力が高くても、4年制大学への進学以外の進路を選択する生徒もいる。目標設定については様々な要因を含めて設定する必要がある。

○ 大学入試について、一般入試の受験動向はどうなっているか。

→ 時期的には一般入試はこれから。ただ、例年、早い段階で進路を決定したいと希望する保護者・生徒が多く、その結果、公募制推薦や指定校推薦での進学を狙う生徒は多い。本年度はコロナの影響で入試についての見通しが悪くなり、その傾向がより顕著になった。一般入試にチャレンジする生徒が実績を出せるように支援を続けたい。最終的な令和2年度の進路状況については、次年度第1回学校運営協議会で報告の予定。

(生徒の学習状況について)

○ 生徒の授業アンケートの結果では81%が「わかりやすい」と回答している。聞くだけの授業より、生徒同士で話し合ったり考えたりする方が深い学びにつながるはず。何をもちてわかりやすいと判断しているのだろうか。

→ コロナ禍で、感染対策の指針に従った学習活動が求められ、残念ながら対面やグループワークなどの活動については現状、制約がある。教員からの問いかけ、発問等で生徒の興味・関心を高める工夫をしている状況。

○ 1・2年生に実施した生活実態調査で、就寝時間が0時以降と回答している生徒が相当数いる。どのような生活をしているのだろうか。

スマホ、PC、テレビ等の電子機器を授業のある平日でも4時間以上使うという生徒が45%もいる。今の時代に即した基本的な情報教育の必要性が高まっている。

スマホ依存は大きな課題であろう。友人同士のやり取りをスマホで完結してしまうと、コミュニケーション能力が低下するのでは。

→ 生活実態調査の結果から、学びの場が学校だけになっている生徒がいることがわかる。コロナによる休業の間に乱れてしまった生活を立て直せないまま過ごしている生徒もいる。そういった生徒はスマホのゲームやSNSに依存する傾向がある。家庭学習が1時間未満の生徒も少なくない中、スマホ依存から脱却して

自主的に学習に向かわせることが非常に重要。「情報」の授業の中で情報端末を利用する際の基本的な注意を徹底するだけでなく、日々の授業時間を大切に、毎日の学習が習慣になるよう指導していきたい。

→ 学校再開後も生徒には種々のストレスがかかっている。アクティブラーニングや食事の場面での制約、マスク着用の徹底、土曜授業など。様々な視点での配慮や、ストレス発散の機会を作ることも必要であると考えている。例えば、実施できなかった文化祭の代わりに、規模は小さいものの、文化部発表会を設定したことなど。

(部活動について)

- 部活の定着率が気になる。以前は60%を維持していた。

- ボート部、レスリング部、書道部などは全国大会に行っている。部活も頑張っていて、仲間がほしい、部員を増やしたいと思う生徒は多い。新入生をいかにクラブに結び付けるかが課題。体験期間を設けるなどしているが、今年度はコロナで年度初めの勧誘がうまくいかなかった。
- クラス減となり、分母となる生徒数自体が減る中、どのように部活生徒を確保するか、またどのように部活定着率を維持するかは引き続き課題である。

(コロナ禍での連絡体制について)

- コロナ禍で休業中の生徒、保護者との連絡はどのようにしていたのか。SNSなどは使っていたのか。

- 生徒に対してはホームページ内で指示を出していた。現在、Googleが提供するG-Suiteという学習支援ツールの導入を進めているところである。次年度以降は、生徒への連絡もこれを利用することになる。
保護者に対しては、メーリングリスト、およびブログで連絡を行った。

- ・ 各委員の方々から頂戴した貴重なご意見を校内で共有し、今後活かしていきたい。